

## 明治初頭の神奈川台場



明治初頭に撮影されたとみられる神奈川台場のモノクロ写真に色をつけた写真。山本博士さん所蔵

# 着色写真 見つかる

1859(安政6)年の横浜開港の翌年に完成した「神奈川台場」(現在の横浜市神奈川区神奈川1丁目)を明治初頭に撮影した着色写真が昨年末、米国内で見つかった。横浜開港資料館によると、モノクロはあったが、着色が確認されたのは初めてという。10日から開港資料館で展示される。

(佐藤善一)

## 横浜の収集家、米写真店から購入

モノクロ写真に着色をした1枚。全体的に色あせて黄色みがかっているが、民家の屋根には赤みや青みが残っている。横浜の古い写真などを集めている横浜市の山本博士さん(40)が海外のインターネットオークションサイトで写真を見つけ、購入した。米カリフォルニア州の古写真店が出品していた。

山本さんは「神奈川台場は国際都市横浜の貴重な史跡。多くの人に知ってもらいた

で展示  
開港資料館  
10日から展

## 「貴重な史跡知って」

い」と写真を開港資料館に寄託した。西川武臣・主任調査研究員は「外国人の土産用に販売された写真だろう。横浜は関東大震災や空襲で焼け野原になっていたので資料が極端に少ない。貴重な1枚」と話していた。

神奈川台場は海岸警備と監視のため、幕府が伊予松山藩に命じ、1860(万延元)年に完成した。勝海舟が設計を担当。海に突き出た台場は約2万6千平方メートルあり、14門の大砲が設置された。台場は1899年に廃止。現在は周辺が埋め立てられて石垣の一部しか残っていない。

設備工事のため休館中だった開港資料館は10日に一部開館する。同日に始まるミニ展示では勝海舟を特集。勝が幕末に長崎海軍伝習所のオランダ人教官から譲り受けた本などを展示する。23日まで入館無料。